令和9(２０２７)年度
名古屋市立大学大学院
医学系研究科博士課程
(４月入学)学生募集要項
(社会人入学を含む)

入学者選抜は、年２回実施する。１回目は令和８年11月、２回目は令和９年２月。

名古屋市立大学大学院アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

【医学系研究科　博士課程】

≪求める学生像≫

・将来の医学研究をリードする国際的医学研究者を志す人
・高度最先端医療を創出し、実施する医療人を志す人

≪修得しておくべき知識の内容・水準≫

欧文論文読解と作成のための英語能力に加えて、医学・医科生命科学研究遂行に必要となる理系大学学部、あるいは大学院修士課程修了レベルの生命科学・基礎医学知識を有すること、または高度最先端医療の実践を目指しうる基礎的医療技術と知識・経験を有すること。

1　募集人員　(4月入学者と10月入学者の合計数)

医学専攻　100名

本学大学院医学系研究科博士課程医学専攻では、社会人(研究所・病院・企業・官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者)が最新の医学・医療の知識を学び、より高度な研究の能力と技術を身につけて、社会に貢献することを期待して、昼夜開講制により、授業を夜間に行なうカリキュラムを実施しています。

(注)　志願者は出願に先立ち、事前に指導を希望する教員に相談してください。研究テーマによっては、医師免許を必要とする科目もあるので、あわせて確認してください。

2　出願資格

(1)　医学、歯学、薬学又は獣医学(薬学及び獣医学は修業年限6年に限る。)の課程を修了し、大学を卒業した者又は令和9年3月までに卒業見込みの者
(2)　外国において、学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は令和9年3月までに修了見込みの者
(3)　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者又は令和9年3月までに修了見込みの者
(4)　我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和9年3月までに修了見込みの者
(5)　外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設で

あって(4)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和9年3月までに授与見込みの者

(6) 文部科学大臣の指定した者

ア 防衛省設置法(昭和29年法律第164号)による防衛医科大学校を卒業した者及び令和9年3月までに卒業見込みの者

イ 修士課程を修了した者及び令和9年3月までに修士の学位の授与を受けることのできる者

ウ 前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者で、医学系研究科において、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

エ 大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を除く。)を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、医学系研究科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(7) 大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了し、医学系研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者

(8) 医学系研究科において、個別の入学資格審査により、(1)に定める者と同等以上の学力があると認めた者で、令和9年3月31日までに24歳に達するもの

3 資格審査(出願資格(6)ウ、エ(7)及び(8)により出願する場合)

(1) 資格審査申請期間

1回目　令和８年９月１８日（金）～ 令和８年９月２８日（月）必着

2回目　令和８年１２月２１日（月）～令和８年１２月２３日（水）必着

ア 過去に本学で入学試験に係る出願資格認定を受けた場合は，出願資格審査の免除が可能です。出願時に「受験資格有」と認定された個別資格審査結果通知書を同封してください。

イ 封筒の表に「医学系研究科博士課程資格審査書類在中」と朱書し、下記(2)の書類を必ず書留速達で郵送してください。郵送先は、「出願・入学等に関する照会先」(３ページ)を参照ください。

ウ 窓口受付は行いません。また、期間内に到着しなかった場合は、受理しません。(消印有効ではありませんので注意してください。)

エ 国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が申請手続を行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。(外国からの郵送による申請は受け付けませんので注意してください。)

(2) 申請書類

ア 出願資格(6)のウにより出願する者

⇒個別資格審査願(所定様式)、履歴書(所定様式)、成績証明書及び2年以上の在学(または在学見込み) 期間のわかる証明書

イ 出願資格(6)のエにより出願する者

⇒個別資格審査願(所定様式)、履歴書(所定様式)、卒業証明書及び成績証明書、研究に従事した証明書、業績書(所定様式)

ウ 出願資格(7)の「大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学した者」により出願する者

⇒個別資格審査願(所定様式)、履歴書(所定様式)、成績証明書、大学の履修規程、授業シラバス

エ 出願資格(7)の「外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者」により出願する者

⇒個別資格審査願(所定様式)、履歴書(所定様式)、卒業証明書及び成績証明書

オ 出願資格(8)により出願する者

⇒個別資格審査願(所定様式)、履歴書(所定様式)、中学以後の学校の卒業がある場合はその証明書(高校、短大、各種学校等)、研究業績目録

(注1) 個別資格審査申請の際に、出願に必要な書類を既に提出している者は、出願の際に再度提出する必要はありません。

(注2) 外国の高等教育機関で発行された卒業証明書・成績証明書等のうち、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。なお、コピーを提出した場合は、入学手続の際に原本を確認します。

(注3) 成績証明書、卒業証明書等に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類の原本をあわせて提出してください。

（注4） 履歴書、受験許可書は、下記 URL からダウンロードすることができます。
本学ウェブサイト https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/med/index.html

（3）審査結果
審査後、速やかに通知します。

出願・入学等に関する照会先

〒467－8601
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
名古屋市立大学学生課（入試） 医学系研究科入試担当
電 話 052(853)8020
FAX 052(841)7428
E-mail shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp

4 出願期間

（1）出願期間
1回目 令和8年10月21日（水）～令和8年10月28日（水）必着
2回目 令和9年1月25日（月）～令和9年1月28日（木）必着

（2）出願方法
ア 必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙〈本学指定〉を角型2号の封筒（ご自身でご用意ください）に貼り付け、その封筒に出願書類等を入れ、必ず書留速達で郵送してください。
イ 窓口受付は行いません。また、期間内に到着しなかった場合は、受理しません。（消印有効ではありませんので注意してください。）
ウ 国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続を行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの郵送による出願は受け付けませんので注意してください。）

（3）受験票、試験場案内は、１回目については令和８年１１月４日（水）、２回目については令和９年２月３日（水）までに、出願者（代理人）あてに郵送します。それまでに届かない場合は〔学生課（入試） 医学系研究科入試担当〕（3ページ）に照会してください。

5 出願書類等

書類等		摘要
1	入学願書 照合写真票 受験票	〔本学所定用紙使用〕 ・写真は、上半身、無帽、正面向き、背景なし、カラー、出願前3か月以内に撮影したものを貼ってください。（縦4cm×横3cm） ・受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。
2	履歴書	〔本学所定様式使用〕 ・学歴は、大学入学から記入してください。 ・出願資格（2）、（3）により出願する者、（5）、（6）エ及び（7）により出願する者で、外国おいて学校教育における16年の課程を修了したものは、初等教育（小学校入学）から高等教育（大学相当）まで、修了した学校教育をすべて記入してください。 ・出願資格（8）により出願する者は、中学卒業以後から記入してください。 ・職歴があれば記入してください。

3	成績証明書	・在籍又は出身大学が作成したものです。 但し、本学医学部卒業（見込）者は、提出の必要はありません。 ・出願資格（2）、（3）により出願する者、（5）、（6）エ及び（7）により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、外国において修了した高等教育機関（大学相当）の成績証明書を提出してください。 ・コピーは不可。※注2 ・日本語又は英語により作成するか、日本語又は英語による訳文を添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
4	卒業証明書 （卒業見込証明書）	・在籍又は出身大学が作成したものです。 ・出願資格（2）、（3）により出願する者、（5）、（6）エ及び（7）により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、外国において修了した高等教育機関（大学相当）の卒業証明書を提出してください。 ・コピーは不可。※注2 ・日本語又は英語により作成するか、日本語又は英語による訳文を添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
5	受験許可書	〔本学所定様式使用〕 ・現に在職中の者は、勤務先の所属長の受験許可が必要です。 （社会人大学院生として大学院で履修することの許可を得ている証明） ・ただし、本学医学研究科・附属病院在職者は提出の必要はありません。
6	住民票 （外国籍の者のみ）	・外国籍の者で在留資格がある者は提出してください。 ・在留資格期間が短期の者はパスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。 ・国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。
7	入学検定料等 （30，410円）	【日本国内から検定料等を納入する場合】 ・入学検定料は、振込依頼書（本学所定のもの）を使用し、必要事項を記入のうえ、30，410円（入学検定料30，000円＋受験票等送付のための速達郵便料金410円を添えて銀行などで振り込んでください。（ゆうちょ銀行では取り扱いません。また、ATM等は使わず必ず窓口で振り込んでください。） ・振込手数料は志願者本人の負担となります。 ・銀行などから受け取った「検定料納付証明書（B票）」を他の出願書類と一緒に提出してください。（「振込金（兼手数料）受領書（A票）」志願者が保管するものなので注意してください。） ・原則として既納の入学検定料は返還しません。但し、以下の場合は、納入された入学検定料を返還しますので、本学ウェブサイトをご覧ください。ご不明な点がありましたら、〔学生課（入試）医学系研究科入試担当（3ページ）〕へお問合せください。 ・二重で振込みをした場合 ・入学検定料等の振込後、出願書類を提出しなかった場合（出願が受理されなかった場合も含む） 【日本国外から検定料等を納入する場合】 出願者氏名により電信送金で出願期間締切日（１回目：令和８年１０月２８日（水）、２回目：令和９年１月２８日（木））までに下記の口座へ到着するように送金してください。 また、銀行で発行された受領書（外国送金証明書）のコピーを他の出願書類とともに提出してください。 【振込方法】 送金種別：電信送金 支払方法：銀行振込 送金額：30，410円＋手数料　※ ※送金時に必要な手数料（振込銀行手数料〈海外銀行分〉と支払銀行手数料〈日本国内銀行分〉の両方。途中経由銀行の手数料がかかる場合もあり。）は、すべて志願者が負担してください。 ※必ず日本円で送金してください。日本円以外の外貨で送金した場合、出願を認めません。

		【振込口座】 銀行名：三菱UFJ銀行（The Bank of Mitsubishi UFJ,Ltd.） 支店名：滝子支店（Takiko Branch） 口座番号：1232518 受取人：公立大学法人名古屋市立大学（Nagoya City University） 受取人住所：〒467-8601　愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 （1 Kawasumi,Mizuho-cho,Mizuho-ku,Nagoya-shi,Aichi 467-8601 JAPAN） SWIFT コード：BOTKJPJT
8	あて名用シール	〔本学所定用紙使用〕 返信先を明記してください。受験票等の送付及び合否の通知に使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。
9	出願書類提出用封筒	出願書類提出用封筒の表紙＜本学所定＞に必要事項を記入してください。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課（入試）宛に郵送してください。

（注1） 個別資格審査申請の際に、出願に必要な書類を既に提出している者は、出願の際に再度提出する必要はありません。

（注2） 外国の高等教育機関で発行された卒業証明書・成績証明書等のうち、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。なお、コピーを提出した場合は、入学手続の際に原本を確認します。

（注3） 成績証明書、卒業証明書等に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類の原本をあわせて提出してください。

（注4） 履歴書、受験許可書は、下記 URL からダウンロードすることができます。
本学ウェブサイト https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/med/index.html

6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず〔学生課（入試）医学系研究科入試担当（3ページ）〕まで申し出てください。

7 入学者選抜期日及び方法等

試験期日	試験時間	試験科目	試験会場
【1回目】 令和8年11月9日（月）	13:00～15:00	医学・生物学一般（筆答）	医学研究科・医学部 研究棟 11階　講義室A
	15:30～17:00	外国語（英語－筆答） 辞書の持込みを認めます。（電子辞書は不可）	医学研究科・医学部 研究棟 11階　講義室A
	17:30 ～	専門科目（口答） 志望専門科目（研究内容一覧参照）	志望専門科目 教官室

試験期日	試験時間	試験科目	試験会場
【2日目】 令和9年2月8日（月）	13:00～15:00	医学・生物学一般（筆答）	看護学部棟 3階　308演習室
	15:30～17:00	外国語（英語－筆答） 辞書の持込みを認めます。（電子辞書は不可）	看護学部棟 3階　308演習室
	17:30 ～	専門科目（口答） 志望専門科目（研究内容一覧参照）	志望専門科目 教官室

（注） 受験者は、12時45分までに試験会場に集合してください。

8 合格発表

合否結果は以下の期日に郵便にて発送します。

1回目　令和8年12月4日（金）
2回目　令和9年3月3日（水）

1回目は令和8年12月8日（火）までに、2回目は令和9年3月8日（月）までに結果が届かない場合は、〔学生課（入試）医学系研究科入試担当（3ページ）〕に問い合わせてください。

※学内掲示及び Web 掲載による発表は行いません。

9 入学手続

（1） 手続期日（予定）

1回目　令和8年12月中旬
2回目　令和9年3月中旬
具体的な日時は合格通知に併せてお知らせします。

（2） 手続方法

合格通知に合わせて詳細を通知します。

（3） 入学手続時に必要な経費

ア 入学料　　名古屋市住民等　　232，000円
　　その他の者　　332，000円

※本学大学院の修士課程を修了して引き続き同一研究科の博士課程へ進学する方は、納付する必要はありません。

イ 学生教育研究災害傷害保険料　　3，300円
ウ 接触感染症特約　　70円
エ 付帯賠償責任保険料　　2,000円

（注1） 入学料等は入学手続時までに金融機関で納入してください。既納の納付金は返還しません。
（注2） 名古屋市住民等とは、①入学者　又は　②配偶者若しくは1親等の親族が、入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。
（注3） 上記は令和8年度4月入学者の金額です。令和9年度入学者については、改めてお知らせいたします。

10 授業料

年額　535，800円　（前期・後期分　各267，900円）

（注1） 授業料は、入学後、年2回（前期・後期）に分けて納付してください。（口座引落）
（注2） 授業料は、令和8年度4月入学者の金額です。令和9年度入学者については、改めてお知らせします。在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用します。
（注3） 必要な諸経費については別途徴収することがあります。

11 授業料免除制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合には審査のうえ、授業料の全額または半額、もしくは４分の１の額が免除されます。詳しくは、学生課（学生支援）（０５２－８７２－５０４２）へお尋ねください。

12 奨学金制度

（1） 日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

（詳細） https://www.nagoya-cu.ac.jp/education/fees/jasso/
希望者については本学において、学業成績及び研究能力等を審査のうえ推薦手続をとります。詳しくは、学生課（学生支援）（052－872－5042）へお尋ねください。

（2） 医学系研究科独自の奨学金として、下記の給付制度があります。

明石修三学生奨学金：本学医学（系）研究科修士課程から医学系研究科博士課程へ進学する学生に対し、1年分の授業料相当額を支給します。支給人数は年間最大2名まで、審査あり。
※本人の年収が180万円を超える者は対象とならない等の支給要件があります。

（3） 大学独自の奨学金として、下記の給付制度があります。

なごや共創研究基金奨学金：審査のうえ1名につき半期25万円（1年間最大50万円）を支給します。
※本人の年収が180万円を超える者は対象とならない等の支給要件があります。詳しくは、学生課（学生支援）（052－872－5042）へお尋ねください。

13 注意事項

(1) 出願書類等が不備の場合は受理しません。
(2) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
(3) 出願書類等は返還しません。
(4) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課(入試)医学系研究科入試担当(3ページ)〕に連絡してください。
(5) 二重学籍は原則禁止します。

14 大学院設置基準第14条による教育方法の特例(昼夜開講制)

本学大学院医学系研究科博士課程医学専攻では、平成16年度より昼夜開講制を導入し、授業及び研究指導を夜間や特定の時間又は時期に受けることができます。

15 連携大学院

連携大学院とは、学外における高度な研究水準をもつ国公立や民間等の研究所の施設・設備、人的資源を活用して大学院教育を行う方法であり、本学大学院医学系研究科では、国立がんセンター、国立感染症研究所及び国立国際医療研究センターと連携の協定を締結しています。

緊急時における大学からのお知らせについて

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要が生じた場合には、本学ウェブサイトにより周知しますので、受験前は特に注意してください。

また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

○本学ウェブサイト　https://www.nagoya-cu.ac.jp/

個人情報の取扱い

個人情報については、名古屋市個人情報保護条例に基づいて、次のとおり取り扱います。

(1) 個人情報の利用
ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務(出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等)を行うために使用します。
イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を今後の入学者選抜及び大学院教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。(調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。)
ウ 入学者の個人情報については、教務関係(学籍管理、修学指導等)、学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。
(2) 業者への委託
上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者に委託することがあります。

敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにもこの方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいています。

専門分野研究内容一覧

専攻	講座名	専門分野名 担当教授名	研究内容
生体機能・構造医学専攻	基礎医科学	統合解剖学 植木　孝俊　教授	(1) 脳機能発現と脳神経疾患の病態の調節に代謝系、免疫系があずかる分子基盤を、ニューロン・グリア相関や粘膜免疫系に着目しながら、機械学習などのAIを併用し探究する。 (2) ヒトと動物で脳イメージング技術を駆使し、リハビリテーションによる治療的介入を至適化するための治療標的と予後マーカーを探索するとともに、それを分子標的とする先端リハビリテーション技術の研究開発を行う。
		機能組織学 鵜川　眞也　教授	感覚器と脳の両方面でシームレスな研究を展開 (1) 聴覚・味覚受容に関する遺伝子の同定と遺伝子改変動物を用いた機能解析 (2) 成体脳海馬の新生神経に関する形態学的・分子生物学的・生理学的研究
		分子腫瘍学 田口　歩　教授	プロテオミクスを起点とする多層オミクス解析を武器に、分子レベルでがんの本質を解き明かし、その克服を目指しています。 (1) プロテオーム解析手法の革新と次世代プロテオミクスの創成 (2) がん早期診断と治療個別化に資する血液バイオマーカーの開発 (3) 網羅的分子プロファイリングによるがんの分子機構解明と分子標的治療の開発
		細胞生化学 加藤　洋一　教授	繊毛は細胞外に突出したアンテナ状の細胞小器官で、様々な疾患との関わりが知られている。我々の研究室では以下の研究テーマに焦点を当てている。　(1)繊毛形成の制御機序の解明　(2)繊毛によるシグナル伝達の制御機序の解明　(3)繊毛病の病態機序の解明　(4)様々な疾患における繊毛の役割の解明（悪性腫瘍、不育症など）
		細胞生理学 橋谷　光　教授	平滑筋およびその周辺細胞に関する機能的、形態学的研究 (1) 平滑筋自発活動の発生伝播機構 (2) 平滑筋機能の神経性、液性制御機構 (3) 内臓組織における微小血管の機能特性 主要実験方法：電気生理学的手法、細胞内カルシウムイメージング法および蛍光免疫染色法
		脳神経生理学 飛田　秀樹　教授	神経科学&神経生理学的手法を駆使し、病態生理学的な視点のアプローチから3つのプロジェクトの研究を実施し、脳神経系の生理機能の解明にアプローチしています。 (1) リハビリテーションによる脳内出血後の前肢運動機能の回復メカニズムの解析 (2) 新生仔白質損傷モデルへの幹細胞（ES細胞/iPS細胞）移植による機能回復のメカニズム解析 (3) うま味摂取により起動する腸-脳相関による情動形成メカニズムの解析
	病態外科学	消化器外科学 瀧口　修司　教授	臨床応用を目的とした消化器癌の増殖，浸潤，転移，血管新生に関する分子生物学的メカニズムの解明．癌と炎症．栄養治療による炎症反応の修飾機構の解明．内視鏡手術の手術術式の開発．癌の免疫・化学療法．周術期外科感染症．
		呼吸器・小児外科学 奥田　勝裕　教授	肺癌や胸腺上皮性腫瘍などの胸部悪性腫瘍に対する外科的・分子標的治療に関する研究。特に、胸部悪性腫瘍に対する低侵襲手術の臨床的および科学的有用性に焦点を当てた研究。
		腎・泌尿器科学 安井　孝周　教授	尿路結石の分子機構の解明、内視鏡外科、前立腺がんの病態と骨転移機構、がん選択的温熱療法、男子不妊症の病態究明と補助生殖技術、宇宙医学（特に尿路結石と生殖）、泌尿器科手術術式の開発、泌尿器分子生物学、先天性疾患の発生機序、小児泌尿器科学、遺伝子診断法・治療法の開発、排尿メカニズムの解明、泌尿器疾患のエピゲノム制御、ロボット工学、VR技術
		心臓血管外科学 前川　厚生　教授	①僧帽弁閉鎖不全症の人工腱索再建方法に関する研究、②低侵襲心臓手術の中・長期遠隔成績に関する研究③A型急性解離の保存加療に関する研究、④術中脳神経保護のの研究、⑤心筋保護効果を増幅させる物質の研究
		乳腺外科学 遠山　竜也　教授	①乳癌のホルモン依存性増殖機構の解明に関する研究、②ホルモン療法効果予測因子に関する研究、③トリプルネガティブ乳癌に関する研究、④乳癌の予後予測因子に関する研究
		小児泌尿器科学 （未定）	（未定）
	感覚器・形成医学	視覚科学 安川　力　教授	網膜硝子体疾患の病態解明の基礎研究、画像機器による診断・治療に関する臨床研究、AIの活用に関する研究 (1) 加齢黄斑変性の病態解明（脂質代謝メカニズム・マクロファージ・肥満細胞の役割の解析） (2) 眼科ドラッグデリバリーシステム（DDS）（眼内薬物徐放システム）の開発 (3) 細胞シートを用いた再生医療 (4) マルチモーダルイメージングによる網膜静脈閉塞症の病態解析 (5) ナビゲーションシステムを使った糖尿病黄斑浮腫の局所レーザー治療 (6) 眼科領域におけるAI支援画像機器の開発及びデータモニタリングシステムの開発
		耳鼻咽喉・頭頸部外科学 岩﨑　真一　教授	1.ウイルスに起因する急性聴平衡障害の包括的病態解明と新規治療への応用 2.全脳機能解析に基づく両側前庭障害の重症化のメカニズム解明と新規治療への応用 3. ウイルス性顔面神経麻痺のモデル動物を用いた顔面神経麻痺の分子機構の解明 4. めまい・平衡障害に対するノイズ前庭電気刺激を利用した新規治療、前庭リハビリテーションの開発 5. 頭頸部がんの免疫機構の解明と腫瘍溶解ウイルスによる新規治療の開発 6. 発声障害の新たな客観的評価法の開発、痙攣性発声障害の病態解明と新たな手術治療の開発

専門分野研究内容一覧

専攻	講座名	専門分野名 担当教授名	研究内容
生体機能・構造医学専攻	感覚器・形成医学	加齢・環境皮膚科学 (未定)	(未定)
		口腔外科学 渋谷　恭之　教授	顎骨再生に関する基礎的・臨床的研究、口腔前癌病変の治療に関する基礎的・臨床的研究、インプラントによる治療法の開発、顎骨再建と口腔機能回復に関する基礎的・臨床的研究、口腔ケアに関する研究
		形成外科学 鳥山　和宏　教授	創傷治癒遅延とその救済、脂肪幹細胞による軟部組織再建、リンパ浮腫とリンパ管再生
生体情報・機能制御医学専攻	病態医科学	実験病態病理学 髙橋　智　教授	前立腺癌化学予防に関する実験病理学的研究、前立腺癌、乳癌、婦人科腫瘍、消化器疾患の発育・進展に関わる臨床病理学的解析、ギャップ結合タンパクから見た実験的肝発がん研究、健康食品を含む環境物質の発癌修飾作用およびその分子生物学的機構解明に関する研究、ヒト疾患モデル動物を用いた実験的腫瘍病理
		臨床病態病理学 稲熊　真悟　教授	消化器、造血器、呼吸器、軟部組織、唾液腺、中皮、胸腺などを対象に、(1)ヒト組織検体を用いた臨床病理学的解析、(2)in vitro・in vivo モデルを用いた分子病理学的解析、(3)AI や in silico 手法による包括的データ解析を組み合わせることで、腫瘍および反応性病変の発生・進展機構の解明と、診断・治療・予後予測に有用なマーカー分子の同定を目指しています。
		薬理学 大矢　進　教授	イオンチャネルを免疫・炎症疾患、癌、骨疾患、循環器疾患の創薬標的分子として捉え、次のような研究を行っている。①免疫系・炎症性疾患における免疫細胞の機能変動とイオンチャネル活性・発現制御　②がん悪性化・がん免疫とイオンチャネル活性・発現制御　③骨関連疾患とイオンチャネル活性・発現制御　④心臓のメカノトランスダクションにおけるイオンチャネル活性制御　⑤イオンチャネル作用薬の開発
		細菌学 (未定)	(未定)
		免疫学 山崎　小百合　教授	樹状細胞、制御性T細胞を利用した免疫制御の研究と様々な病態の基盤解明・治療開発
		ウイルス学 奥野　友介　教授	(1)Epstein-Barrウイルス(EBV)関連がんの遺伝子解析と治療法開発 (2)慢性活動性EBウイルス感染症の原因解明 (3)新型コロナウイルス感染症の治療法開発 (4)希少疾患(小児がん、遺伝性造血不全症候群等)の原因解明と治療法開発
		病態モデル医学 大石　久史　教授	ゲノム編集技術を用いた遺伝子改変動物の作製と表現型解析を通じて、細胞膜タンパクの再利用経路が各組織の分化や機能に与える影響、およびRNAメチル化の生殖器における役割の解明を目指しています。
	社会復帰医学	整形外科学 村上　英樹　教授	1)腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯の変性メカニズム、2)高悪性軟部腫瘍に対する温熱放射線化学療法、3)小児股関節疾患の病態、4)人工神経による末梢神経の再生、5)前十字靭帯(ACL)不全膝、並びにACL再建膝の動態、6)関節リウマチ(RA)発症機序、7)RAの薬物療法や手術療法による治療効果、8)肩肘投球障害に関する基礎および臨床研究、9)外傷性骨軟骨欠損に対する再生医療、10)大腿骨頭壊死の病態解明とそれに基づく治療法の開発
		リハビリテーション医学 植木　美乃　教授	①　非侵襲的計測法を用いた運動・認知機能評価、ニューロリハビリテーションの開発、② 股関節症術後の装着型サイボーグを用いた新規リハビリテーションシステムの開発　③　パーキンソン病関連疾患におけるclosed loop stimultaionを用いた新規歩行リハビリテーション法の開発　④AIを用いたリハビリテーション効果の予測・最適化　⑤ 神経難病のリハビリテーション現状における全国調査
		精神・認知・行動医学 明智　龍男　教授	抑うつ症・不安症・心的外傷後ストレス症・摂食症・がん患者の認知行動療法・対人関係療法・デジタル技術を用いた治療開発研究。気分障害・統合失調症の家族介入・家族心理教育開発研究。神経発達症・不登校児童・家族のQOL向上および介入方法の開発研究。難治性うつ病の治療最適化研究(mECT,rTMSなどのNueromodulation)。精神腫瘍学・緩和医療学・周産期メンタルヘルス・てんかん学・学生メンタルヘルス・地域精神保健領域の研究も実施。
		精神腫瘍学 (連携大学院) 藤森　麻衣子　教授	がん患者、家族、医療者の支持療法・緩和治療・心のケアに資する研究開発として、がんサバイバーや進行がん患者のケアプランに関する研究、共感的コミュニケーション研究、心理師・看護師・医師協働ケアに関する研究、小児・AYA世代、高齢者のQOLと総合機能評価に関する研究、がん患者の家族・遺族支援に関する研究、がん医療に従事する医療スタッフの教育システムの開発研究、デジタルメンタルヘルスの実装科学研究、ビッグデータを用いたがん対策研究を実施。
		脳神経外科学 中村　元　教授	※研究内容を確認されたい場合は、分野に直接お問い合わせいただくか、医学部事務課までご連絡ください。

専門分野研究内容一覧

専攻	講座名	専門分野名 担当教授名	研究内容
生体情報・機能制御医学専攻	生殖・遺伝医学	産科婦人科学 中山　健太郎　教授	婦人科癌、特に卵巣癌発生機構の分子生物的解明と臨床応用。ロボット、腹腔鏡を用いた新規手術手技の開発。不育症、習慣流産の原因解明。癌代謝経路を阻害する新規治療法の開発。
		新生児・小児医学 岩田　欧介　教授	iPSを用いた小児神経疾患の病態解明と新規治療開発、エコチルデータ(出生コホート)を用いた小児アレルギー疾患発症要因の解明、新生児・乳児期の肝疾患に対する遺伝子解析、生体電位情報による痛みの定量化、多感覚刺激によって乳児の認知機能を促進するあやしロボットの開発、新生児の生体周期獲得過程と調節機構の解明、血流からの病的シェアストレスが引き起こす肺循環におけるメカノトランスダクションの解析と治療応用、人工呼吸を受ける新生児の胸郭挙上の評価法に関する研究、先天性腎尿路異常(CAKUT)症例に関する、胎児期・新生児期早期からの長期腎予後予測因子についての探索的研究、早産児、低出生体重児の長期のrenal outcome(CKD、蛋白尿、高血圧など)の予測因子に関する探索的研究、エコチル調査データを使用した神経発達症に関連する環境因子ならびに養育環境の調査研究、NICUでの新生児行動観察(NBO)による母子支援の効果、限局性学習症の疫学調査及び教育との連携システムの構築、SLC26A7遺伝子異常による先天性甲状腺機能低下症の病態解明、成長障害の遺伝学的解析研究、数理・データサイエンスを活用した新生児腸内細菌叢研究 ―発達と疾患の理解から精密予防・治療へ―
生体防御・総合医学専攻	分子医学	認知症科学 (未定)	(未定)
		腫瘍・神経生物学 川内　大輔　教授	小児および成人の脳腫瘍の発生と進行の機序を解明し、それに基づいて新たな治療標的分子を同定することを目標とする。特に、ヒトの疾患を反映した自然発症する脳腫瘍マウスモデルの開発に注力しており、神経発生学、腫瘍生物学、および情報生物学を融合させた独自の視点から新たながんシグナルの解明に取り組んでいる。また、ヒト患者由来の腫瘍を移植したモデルを用いた薬理学的実験を通じて、基礎研究と臨床研究の架け橋となる研究を、欧米との国際的な共同研究を交えて推進する。
		神経発達症遺伝学 (未定)	(未定)
		神経毒性学 酒々井　眞澄　教授	(1)リスクアセスメント:ナノサイズ粒子の神経系等に与える毒性評価(細胞・個体レベル)と機序解析(サイトカイン、がん関連遺伝子)、(2)ドラッグディスカバリー:毒性軽減を目指した抗がん物質の分子設計およびインシリコ標的分子解析、構造活性相関(QSAR)、機序解析(転写因子、血管新生)、天然医薬品資源学、(3)エクソソームを介した細胞間相互作用の探索、(4)脳内シグナルペプチドの機能解析(5)動物モデル:ヒトへの外挿モデルとして試験開発と有用性評価
		神経発達・再生医学 澤本　和延　教授	中枢神経系の発生・再生のメカニズム解明と再生医療への応用をめざして、成体脳における神経幹細胞の増殖・分化と新生神経細胞の移動・成熟機構を中心に、齧歯類と霊長類、正常動物と疾患モデルを比較しながら研究する
		認知機能病態学 (寄附講座) 野村　洋　教授	記憶・学習や情動の神経メカニズムの解明。特にin vivo神経活動の測定や操作、神経回路の選択的な可視化による脳神経ネットワークの解析。記憶や情動の破綻が関わる神経疾患、精神疾患の病態解明、新規治療法・予防法の開発。(注)寄附講座は、設置期間に期限があります。
	生体総合医療学	消化器・代謝内科学 片岡　洋望　教授	1. 消化器癌の新規診断，治療マーカーの探索、2. 消化管癌に対する光線力学診断法，治療法の開発、3. 炎症性腸疾患の新規薬物療法の開発、4. IgG4関連疾患や自己免疫性膵炎に対する新規診断・治療法の開発、5. 悪性胆道や消化管狭窄に対する金属ステント治療法の確立と力学的観点を含む集学的検討、6. 非アルコール性脂肪肝炎治療法の開発、7. 肝発癌抑制のための治療法の開発、8. ウイルス肝炎におけるウイルス・ヒトゲノム解析、9. 糖尿病・脂質異常症・肥満症・内分泌疾患の病因病態の解明と新規治療標的分子の探索、10. 人間工学を応用した消化器内視鏡分野の労働衛生研究
		呼吸器・免疫アレルギー内科学 赤松　弘朗　教授	1. 肺癌患者の末梢血を利用した個別化医療に関する研究、2.喘息・慢性咳嗽と咳過敏症の原因解明並びに新規治療法確立に向けた研究、3. 間質性肺炎の病態解明・個別化医療・遠隔管理システムの開発に関する研究、4. 観察研究に基づく関節リウマチ診療のUnmet Needの抽出と現行医療で可能な解決策の探索、5. 多施設電子カルテデータを用いた免疫疾患の有害事象の疫学的解明と肺予後・薬剤使用変遷の解析、6. MTX代謝関連遺伝子多型とBio休薬後のMTX単独治療による寛解維持との関連
		循環器内科学 瀬尾　由広　教授	1. 心不全に対する個別化診断および治療戦略の開発に関する研究 2. 循環機能を評価するための先進的な心エコーおよび画像診断技術の開発 3. 構造的心疾患における病態生理の解明と治療の最適化に関する研究 4. 虚血性心疾患の新たな評価と理解に向けた標的としての冠微小循環の研究 5. 高血圧の予防および管理における生活習慣および環境要因の影響に関する研究
		腎臓内科学 濱野　高行　教授	①慢性腎臓病に伴う合併症、特に腎性貧血、骨ミネラル代謝異常に関する研究、 ②腎臓のサイズに着目した糖尿病性腎臓病とうっ血腎の研究、 ③急性腎障害に関する研究、 ④心腎連関の病態解明に関する研究

専門分野研究内容一覧

専攻	講座名	専門分野名 担当教授名	研究内容
生体防御・総合医学専攻	生体総合医療学	神経内科学 松川　則之　教授	①臨床神経学　②パーキンソン病関連疾患の臨床　③アルツハイマー病を中心とした認知症の臨床　④病態生理に基づいた神経疾患画像バイオマーカーの探索　⑤神経ペプチドから視たアルツハイマー病病態解明　⑥新規アルツハイマー病モデル動物を用いた治療薬開発の基盤研究
		血液・腫瘍内科学 飯田　真介　教授	①造血器腫瘍を中心とした癌の分子病態解析、新規治療標的分子の同定、分子標的薬の効果と毒性を予測するバイオマーカー研究、薬剤耐性化機序の解明とその克服に関する研究、②抗体療法やキメラ抗原受容体導入T細胞(CAR-T)療法を中心とする新たながん免疫療法の開発研究、③がん薬物療法の臨床試験、臨床治験の計画・実施によるエビデンスの創出
		麻酔科学・集中治療医学 祖父江　和哉　教授	周術期の神経認知機能障害の機序解明、敗血症による中枢神経障害の発症機序解明と治療法の開発、慢性疼痛発症機序の解明と治療法の開発、口腔領域の慢性疼痛の機序解明と治療法の開発、重症患者に対する栄養管理に関する基礎的研究、麻酔・集中治療領域の臨床研究
		放射線医学 樋渡　昭雄　教授	①種々の画像診断機器を駆使した先端的画像診断研究、②人工知能を応用した放射線医療の構築、③新たな画像下治療(Interventional radiology: IVR)法の開発、④陽子線治療を含む放射線治療の最適化と治療成績向上、⑤放射線生物学に基づく放射線生物学の探求
		総合診療医学・総合内科学 宮﨑　景　教授	下記のトピックに関する量的および質的研究①総合診療医/総合内科医の養成（カリキュラム開発、ビデオレビュー、多職種連携等）、②ACP(人生会議)の推進、③医療面接の有用性(SP養成等)、④SDH(健康の社会的決定要因)(COVID-19、在日外国人の医療アクセス等)、⑤健康の新しい概念(positive health)の構築、⑥希少疾患(SCLS)に関する全国調査、診断、治療法の開発⑦コミュニティヘルスケアセンターを活用した地域参加型研究（フレイル予防等)⑧プライマリ・ケア領域における家族療法の活用に関する研究
		臨床薬剤学 日比　陽子　教授	①抗がん剤治療を行う患者の副作用発現リスクの解析。②機械学習と母集団薬物動態モデルを統合した薬物血中濃度予測法の構築。③泌尿器・腎臓疾患と薬物の関連についての解析と新規治療法の開発。④せん妄など脳機能障害と腎臓疾患の関連についての解析。⑤その他、薬物治療上の問題点をシーズとした臨床研究。
		先進救急災害医学 舩越　拓　教授	救急医療の適正化、未来の政策に影響を与えるエビデンスの創出 救急重症病態（心停止や外傷）の治療や診断に関する大規模データを用いた疫学研究 救急集中治療領域の手技に関する測定系の開発と検証 敗血症病態と血管内皮に関する研究
		救命救急医療学 松嶋　麻子　教授	高齢化社会における敗血症に関する臨床研究、院内感染予防と対策に関する臨床研究 重症外傷および救急搬送に関する臨床研究 減災・医療に関する研究 救急医療とヘルスケアアートに関する研究
		感染症学 伊東　直哉　教授	①病院および地域の抗菌薬適正使用支援に関する研究　②感染症コンサルテーションが患者アウトカムに与える研究　③免疫不全患者におけるCOVID-19研究　④薬剤耐性菌の臨床研究　⑤帰国後患者の感染症の疫学研究
予防・社会医学専攻	医学教育・社会医学	環境労働衛生学 上島　通浩　教授	①環境化学物質のリスク評価（健康影響・作用機序・曝露量の解明）に関する研究 ②小児環境保健疫学研究
		公衆衛生学 （未定）	（未定）
		法医学 大島　徹　教授	被虐待児の眼所見に関する研究，死後生化学検査を用いた法病理学的研究，体内の細胞外小胞解析による死因究明，ヒト細胞を用いた薬毒物の毒性発現機序の解明，ミトコンドリア遺伝子を用いた人類遺伝学的検討，ヒト感染ウイルスを用いた分子進化学的検討とその法医学的応用，法医真菌学，法医画像診断
		医学・医療教育学 高桑　修　教授	多施設参加型教育システムの開発、効果的なFaculty developmentの開発、新しい多職種連携教育の開発と有効性の評価
		次世代医療開発学 （未定）	（未定）
		医療統計学・データサイエンス 吉村　健一　教授	①統計学的方法論および臨床研究方法論に関する研究（臨床試験デザイン、因果推論〔因果機械学習を含む〕、生存時間解析、サブグループ解析、多施設共同研究方法論、ベイズ統計学的方法論、メタアナリシス方法論等）、②大規模データを対象とするデータサイエンス研究（リアルワールドデータ解析、レジストリ・電子カルテデータの統合解析、データ管理・品質管理方法論等）、③機械学習を中心とした人工知能（AI）の医療分野における方法論開発および応用に関する研究（予測モデルの開発・評価・検証、深層学習の医療応用、説明可能AI（xAI）等）